



季節を知ったら  
暮らしが楽しくなった

（第一九五号）

だい かん  
大寒

一月二十日

## 鷲嶺観音

鷲の嶺と書いて、「しゅうれい」と読みます。神宮の周辺の山は神路山かみじやまと呼ばれますが、その最深部にある標高五四八メートルの山です。文豪、吉川英治の小説『宮本武蔵』ではこの山の断崖によじ登って剣豪、武蔵が修行したところとされ、名前が知られているわりに、道がわかりにくくなかなか人を寄せ付けない山でもあります。

地元の登山愛好家の方々に同行して、山頂を目指すと、途中に鷲嶺観音しゅうれい かんのおんへ立ち寄りました。

崖つぶちの道をおそろおそろ行くと、大きな岩の元に洞があり、そこに観音の小さな祠がまつられています。登山者には「西向きの観音さん」と呼ばれ、知られているようです。西向きというのは珍しいそうですが、その理由はわかりませんでした。ただ、そこからは眺望がよく、山々が見張らせました。

あとで鷲嶺観音について調べてみると地元では平清盛の四男、知盛がまつったといわれ、壇ノ浦だんのうらに向かって立っていることがわかりました。平家一門の冥福を祈る観音だから、西を向いているのかと合点がきました。

しかし、知盛は壇ノ浦で亡くなったはず。入水する際、浮かびあがらないよう碇いかりを持ったとも、鎧よろいを二枚重ねたともいわれています。

じつはこの山のふもとの伊勢市矢持町やもちは、平家の再興を願って、知盛一行が落ち延びたという伝説が残っていました。平家落人伝説の地ゆえに、鷲嶺観音の言われもあるのでしょう。

壇ノ浦の合戦で平家が破れて八百年以上。遠く離れた伊勢の地でも敗者の霊を弔う観音さまがあるのです。西向きの観音さんにまつわる言い伝えに、人々の優しさに触れたように思いました。

文 千種清美

